



ロータリー：  
変化をもたらす

## パワー浜松ロータリークラブ週報

クラブテーマ：奉仕の理想のさらなる実現に向けて

パワー浜松ロータリークラブ（2017-18年度 会長：長谷川 博久 幹事：後藤 達朗）  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室  
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC

### 第705回例会 1月30日 AM7:30~8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会：松島弘明 三枝潤也
- 点鐘：長谷川博久
- ゲスト：静岡第7分区ガバナー補佐 佐原功一郎 様  
同 事務局長 白井繁充 様  
IM 実行委員 神藤雅章 様  
名古屋大学副総長 木俣元一 様
- 議事：財団プログラム部会「文学部の逆襲」

〈出席報告〉

会員数 79名(内 出席免除会員3名)  
出席数 62名 出席率 81,58%  
前々回出席率 86,84%

#### ■会長挨拶



おはようございます。本日は、ガバナー補佐の佐原様、ガバナー補佐事務局長の白井様、IM 実行委員会事務局次長の神野様、3 回目の公式訪問ということで早朝よりありがとうございます。IMまで一か月ちょっとということで大変でしょうが楽しみにしていますのでよろしくお願ひしたいと思います。

そして先週の土曜日ですが職業奉仕セミナーということで静岡まで行ってまいりました。当クラブからも松本委員長が出席されましてありがとうございました。職業奉仕と奉仕の理念という題で日本のロータリー100 周年の実行委員長でもありますバストガバナーの本田様の講演がありました。大変貴重な話で勉強になりました。また、松本委員長からもお話があるかと思ひますので今後、別の機会に皆様にお伝えしていきます。

本日は、名古屋大学副総長の木俣先生においでいただきました。文学部の逆襲というテーマで卓話をいた

だきます。文系理系といった話や大学についての認識を改めさせていただくような話を聞かせていただけますので期待しています。大学の先生という普段聞けない話を聞かせていただきますので本日の卓話を楽しみにしていただきたいことをお願いしまして会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

#### ■幹事報告

レターケースに領収書が入っています。抜粋の綴りも入っています。本日の資料も配布しています。IM の申し込みも 40 名程あります。理事、役員会があります。

#### ■委員会報告

ゴルフ同好会 松本さん 青空例会があります。現在参加者 13 名 です。

#### ■スマイル

長谷川会長 2通 龍谷・山下さん 安間孝明さん  
原田さん 2通 筑紫さん





佐原ガバナー補佐 様

久しぶりに早起きをして来ました。今年度、7ヶ月が過ぎようとしています。長谷川会長を先頭に、松の植樹等、敬意を評します。次年度からは静岡第5グループとしてスタートします。神谷さんが初年度、浜松東さんがガバナー補佐輩出となりました。

一巡後は、浜松に戻す事になりました。今回の編成は、長期的視野に立っての新たな環境を作るものと思っています。皆さんと積極的に関わっていきたいと思います。

浜名湖ロータリークラブによって、多文化共生のIMが開かれます。共生社会を目指すものです。身近な地域の行動として、絆や活性化、一つの視点として捉えようと思います。ロータリーを楽しんでもらえたらと思います。長谷川会長が語っている、設立の原点に帰る事を記念して挨拶とさせていただきます。



IM実行委員 神藤様

浜名湖ロータリークラブのIM 実行委員です。3月4日に開催いたします。場所場所である三ケ日は浜松市内です。近い

と思ってこぞって参加下さい。

式典の内容としては、多文化共生、ロータリーアンとして何ができるかを話し合います。

ガバナー補佐にも登壇して頂きます。今後、外国人の方と接するかというテーマで進めます。中国の方とタイの方にもイベントをしてもらいます。今後最後の第7分区です。是非、ご参加下さい。

## ■議事



財団プログラム部会 山下さん

木俣先生のプロフィールを紹介します。名古屋大学は、スーパーグローバル事業の我が国基幹的の大学です。勇気ある知識人を育てる大学です。ノーベル賞受賞者は6名を出しています。木俣教授は副総長です。文学部で著書も多数あります。



名古屋大学副総長 木俣元一 様

副総長をやっています。浜松生まれです。文科省は、人文社会系が廃止と読めるような通知が出ました。社会的議論

になった時、文科省も困って、誤解だと言い訳している。国立大学に人文社会系はいらないと言っている人がいます。文学部も大学もいないのではないかと言う議論さえもありました。表向きは、50%程、実際は40%程の進学率です。文系学部不要論に対して、大阪大学の方の意見もありました。日頃、大学教育を文系、理系と分けているのにこのような意見が出て来ているのだと思います。

数学や理科を高校教育でしっかりやって、大学に進むと言う状況ができています。それに特化した人を作ると言う考えでやっているが、両方に長けた人を育てることも大切ではないかと考えています。大学教育の成果、質が目に見えにくい所に問題があると思います。難関校、東大や京大が価値ある大学にと考えられています。偏差値が決める。

大学ランキングと言う考えもあります。英語圏の大学が有利になるようなランキングがあったりします。最近、包括的豊かさと言う考え方があります。持続可能な指標を残すこと視点としています。

人工資本と自然資本があります。例えば、石油をどんどん使ってしまうと自然資本がなくなると言う事です。その指標から言うと、人的資本は日本が第1位と言われています。しかし、日本では、教育支援は、OECD加盟国中最下位です。大きな借金をして、ますます貧しくなっていく国ではないかと思っています。

大学教育に成果をどう表現して良いか困っています。卒業生の価値をどう表現するのか。

良い就職口か、本人の幸福度か、それをどう捉えるか難しい所です。20~30年経て大学教育価値が見えてくるものではないかと思っています。

「廃墟」としての人文科学。この本もタイトルから読み取られる事は、人文科学がいらないと捉えるようですが、そうではありません。廃墟は、ヨーロッパでは古典的なものと言う概念です。これは幅の広い意味を持っています。自分たちの中にはないものがある事を発見することを意味しています。存在を示しています。現代的意味を残しています。

そこに大学とは何かという意味で話しました。廃墟は、

ネガティブな意味で受け止められやすいですが、大学と言う所は、知識が詰まっている所と思われがちですが、量よりも知識に対する思考性を持つことが大切と考えています。情報を教えることが目的ではありません。知識への志向性を教えていくことが使命かと思っています。この価値がわかるのは、時間によって見えて来ます。

全ては知れないと言う人間の弱みを知ることが意味ある事かと思っています。そこに廃墟と言う言葉がダブって来ます。大学の中の大学が、人文学かと思っています。時間差によって古典的なものがある事を知る事が大切かと思っています。大学にも文学部は入らないと言う学者もいます。それを気にしていても意味のない事かと思っています。

ホモ・サピエンスから知識を子供に教え始めたと言われていています。人間になった瞬間から人文学が始まったと思っています。この世界には、無限の分からない事がある、自分の外に、分からない事があると言う視点が大切、知る事に喜びを感じる事ができるのではないかと私は思っています。

